

近江八幡市 水道経営ビジョン 2019

平成31年3月

近江八幡市水道事業所

「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」策定にあたって

近江八幡市の水道事業は、昭和 29 年（1954 年）に給水を開始して以来、最も重要なライフラインとして都市活動を支えてきました。

水道事業は、安全で安心な水を安定して供給することであり、そのため、市域の拡大や人口の増加に対応した施設整備や河川の水質悪化に伴う水質管理の充実など、時代に合わせた施策を推進してきました。

また、経営面では受付窓口の民間委託や職員数の削減、電力契約の見直しなどに取組むことで経費の削減を図るとともに、補助金等の積極的な活用により収入の確保を図ることで、使用料金の値上がりを可能な限り抑制してきました。

しかしながら、これまで整備してきました水道施設が更新の時期にあり、持続可能な水道事業を実現するためにも、浄水場をはじめとした基幹施設の再構築を着実に進めていく必要があります。

こうした状況に加え、日本国内において大地震の発生や豪雨の影響による水道施設の損傷なども多く発生しており、琵琶湖西岸地震や南海トラフ巨大地震の切迫性が指摘されるなど、水道を脅かす様々な脅威にも備えていくことが必要です。

このような中、近江八幡市水道事業所では、持続可能な水道事業を実現するために中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動を目的に、平成 29 年（2017 年）より算定期間を 50 年間として水道事業アセットマネジメント（資産活用）に取り組みました。アセットマネジメントの実践では、代替性が小さく、事業がお客様の負担によることなど、水道事業の特性を踏まえ、技術的知見に基づき現有資産の状態・健全度を適切に診断・評価し、中長期の更新需要見通しを検討するとともに、財政収支見通しを踏まえた更新財源の確保方策等を講じることが必要です。また、将来にわたり日常生活に欠くことのできない重要なサービスを安定的に継続することが可能となるよう、中長期的な経営の基本計画である経営戦略（経営計画）の策定が必要となってきました。

そこで、中長期的計画のアセットマネジメントに基づき、課題に対する実現方策を踏まえつつ、平成 41 年（2029 年）3 月までの 10 年間に取り組む施策の事業計画・財政計画を示した「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」を策定しました。

近江八幡市水道事業所では、今後も安全で安心な水を持続してお届けするため、本ビジョンに基づき、ハード・ソフトの両面にわたり取り組んでいくとともに、さらに経営改善を進め、持続可能な水道事業を確立しながら責任を持っておいしい水をお届けします。